●新発田市子育て支援の現状

Ｑ.

新発田市で子育てをしている市民として、現在の子育て支援について意見を申し上げます。

新発田市は「子育てするならやっぱり新発田」という言葉を掲げていますが、実際に子育てをしている立場からすると、その言葉と現状には大きな隔たりがあるように感じています。

特に、児童手当を含め、子育て世帯への経済的な支援については、むしろ他の自治体の方が充実していると感じる場面があります。

物価高騰が続き、食費や日用品、光熱費など、子育て世帯の負担は以前より明らかに増えています。

そのような状況で「子育てするならやっぱり新発田」と掲げるのであれば、キャッチフレーズだけではなく、実際に子育て世帯が「新発田で子育てしていて良かった」と実感できる支援が必要ではないでしょうか。

そこで、以下について具体的にお答えいただきたいです。

・新発田市が「子育てするならやっぱり新発田」と掲げる根拠となっている具体的な支援や、他自治体と比較した際の強みは何でしょうか。

・現在の子育て世帯への経済的支援について、市として十分だと考えているのでしょうか。

・今後、子育て世帯への給付や助成、負担軽減策を拡充する予定はありますか。

「子育てするならやっぱり新発田」という言葉が、単なる PR ではなく、実際に子育てをしている市民が実感できるものになってほしいと思っています。

子育て世帯の一市民からの率直な意見として、市長のお考えと、今後どのように子育て支援を充実させていくのか、具体的な回答をお願いいたします。

（令和 8 年 9 月受付）

Ａ.

私が市長に初めて就任した平成２２年以降、少子化に対応した子育て支援を最重要施策とし、「子育てするならやっぱり新発田」を掲げ、安心して子育てできる魅力ある環境づくりのため、子育て支援策の充実に努めてまいりました。子育て支援策を決して緩めたことはありませんが、手紙を拝見し、さらに応援の声をいただいたものと感じております。

これまでの子育て施策は、経済的負担軽減と子どもの成長支援を両立させる施策を進めてきたと思っております。例えば、経済的支援では、国の制度に基づく「児童手当支給」に加えて、「１、２歳児の保育料無料化の実施」、「１８歳まで子ども医療費助成の拡大」、「第３子以降保育料・副食費無償化の拡充」、「子育て応援カードの利用広域化」など、他市に先駆けた多様な取組を実施してきました。

特に、１歳児から小学校就学前までの保育料無料化の実現や、子ども医療費において負担の大きい入院医療費を無料化したこと、また、安心して妊娠・出産・育児ができるよう、「不妊治療に対する助成」や「妊産婦医療費の所得制限の撤廃」、「妊婦支援給付金」、「第３子以降の出産費助成」など妊産婦を対象とした経済的支援も充実してきており、県内他自治体と比較しても手厚い支援であるものと考えております。

一方、子供の成長を支援する取組では、県内でいち早く「かかりつけ保健師制度」の導入や「こども家庭センター」を設置し、妊娠期から就学前までの子育てを切れ目なく継続して支援し、子育てや家庭の悩みなどについて気軽に相談できる拠点体制を構築してきました。また、「子育てコンシェルジュ」を配置することで安心して保育サービスの利用ができる支援も行っております。

今後の子育て世帯への給付や助成などの具体的な予定との御質問をいただきましたが、今年度は０歳児から２歳児まで医療費の完全無料化に加えて、小学校給食費の無料化に大きな予算を充てたところであり、現時点で具体的にお応えできる給付策や負担軽減策はございませんが、今後も決して、子育て施策の力を緩めるつもりはありません。

このように、当市の子育て支援は、経済的・精神的な面において多岐に渡り、近隣や同規模の自治体と比較しても遜色のないものと考えておりますが、社会情勢が不安定な中で、子育て世帯に対する継続的な支援は極めて重要な課題として認識しております。貴重な御意見は、子育て世帯の代表者の声として受け止め、「新発田で子育てしていて良かった」と実感できるよう、引き続き力を入れて取り組んでまいります。

（令和 8 年 10 月 1 日回答）
※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

●乳児健診の場所

Ｑ.

産後体調がなかなか戻らず、運転が出来ません。旧豊浦町まで行くことが困難です。各月でも良いので旧市内での健診をお願いします。

（令和 8 年 9 月受付）

Ａ.

御提案の旧市内における乳児健診実施に関しましては、駐車場確保をはじめ、感染症対策である３密防止やプライバシー保護といった条件を満たす施設の有無などを総合的に判断した結果、こども家庭センターが同居する豊浦保健センターを中心に健診を実施してきた経緯がございます。

加えて、これまでの取組の積み重ねによる同センターの認知度を踏まえますと、新たな会場への変更は慎重に検討すべき継続課題と捉えつつも、当面は同センターを中心とした健診を継続させていただくことに御理解と御協力をお願い申し上げます。

出産後体調が戻らず大変難儀をされているとのことで、一日も早い回復を心よりお祈りしております。

（令和 8 年 10 月 6 日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。